

か ね の 音

9

あとで

家族の者からちよつとしたことを頼まれたとき「あとで」という言葉をよく使っています。今たいしたことをやっていない訳ではないのに、また頼まれたことは三分とかかるものではないのに、つい「あとで」と言ってしまう。手軽で便利で、それでいて実に恐ろしい言葉である。

何故恐ろしいかって？ それは実際に「後で」行動を起こすことは殆どないからである。皆無とは言わないが、恐らく一割も実行に移されることはないのではないかと。仕舞いには「もう寝る時間だ」とか何とか言つてさらに引き伸ばす。明日になればもう言つてこないだろうと期待(？)しながらごまかしてしまふ。

§・§・§・§

ここで考えなければならぬのは、「あとで」という言葉を掛られたとき、外から見たいしたことをやっていない様に見えないことである。もし誰が見ても大変なことをやっている最中なら、こんな

些細なことを頼みに来やしないのである。

どうしても今、手を放せないのなら、「あとで」と言つて放つたらかしにするのではなく、むしろ「時間後にはどうか。頼むほうは頼む必然性があるのだから忘れはしなれば頼むしかないのだからもう一度やって来るはずである。

§・§・§・§

我家の娘は時々階段の一番下の段に腰掛けて、私の仕事とがある。その時彼女はそれが実現されないと、自分の仕事を続けられないのである。もし私が仕事を中断して五分間彼女の要請に応じてやれば、一五分後には家の中では複数の仕事と同時に進行した筈である。確かに一五分を取られたくないという気持ちはある。だが考えてみれば私の仕事はこのあと二時間でも終わらないのだ。いや三時間でも終わる確証などないのであ

る。今娘に与える一五分の時間は、そのあと続けられる二時間の中で取り返せる筈なのである。要するに自分のやり方次第でこの程度の時間はどうにでもなるのである。

§・§・§・§

ところでこの「後で」という言葉は仕事にも出てしまう。勿論「あとで」という言葉そのものでなくても、「時間が空いたら」という言葉で「後

今月の一言

「いかに『文明国』と呼ばれても、それが残忍なる戦争の栄光に基づくものなら、私たちは野蠻人のままでいた方がどれだけうれしいか知れません。私たちは、私たちの芸術と理想にしかるべき敬意を払つてもらえるまで、よろこんで待つておりましょう」

岡倉天心(茶の本より)

天心は東洋の文化をたことで、西洋から「文明国」と呼ばれたことに対する抗議なのです。

欧米に広めた、大の功労者です。東洋文化論を西洋に向けて発した最初の著作、「東洋の理想」を発表した翌年の明治三七年に、ボストン美術館の日本部顧問に就任し、「いつたいいつになつたら東洋を理解しよう」という気になつてくれるのか」と、日本や中国の文化を西洋に紹介し続けました。

冒頭の言葉は、西洋人は刀を差してちょんまげを結つている日本を、最初は「野蠻国」と見ていたのです。日本が日露戦争で勝つ

回し」にしてしまふことが多々ある。それも優先順位を考えてのことではなく、単に「あとでやるう」と頭の片隅に追いやられたり、机の右隅にスタックされるのである。逆に依頼主が「出来るだけ早く」という言葉で「あとで」を容認していることもある。その結果、さらに後から発生した「あとで」の仕事がその上に覆い被され、先に届いた

§・§・§・§

職場では何人も人が分担して一つの大きな仕事をこなしている。メンバーの仕事は程度の差こそあれ相互に関連し合っている。その様な状況で、各人の仕事が如何にスムーズに処理されるかが、仕事を楽しくする一つの決め手となる。

自分だけのことではなく、今届けられた仕事、全体の中でどの様な意味を持っているのかを考えて、並行性を高めれば判断し処理されなければならないが、その障害になつていないのが「あとで」という姿勢ではなからうか。

§・§・§・§

ひよつとすると大人が何気なく使っている「あとで」という言葉は、家庭の中でこうして子供に伝わるのではなからうかと思つと、やはり恐ろしい言葉である。

